

事業が環境に与える負荷を数値で把握すること。  
それが私たちの環境活動の出発点です。

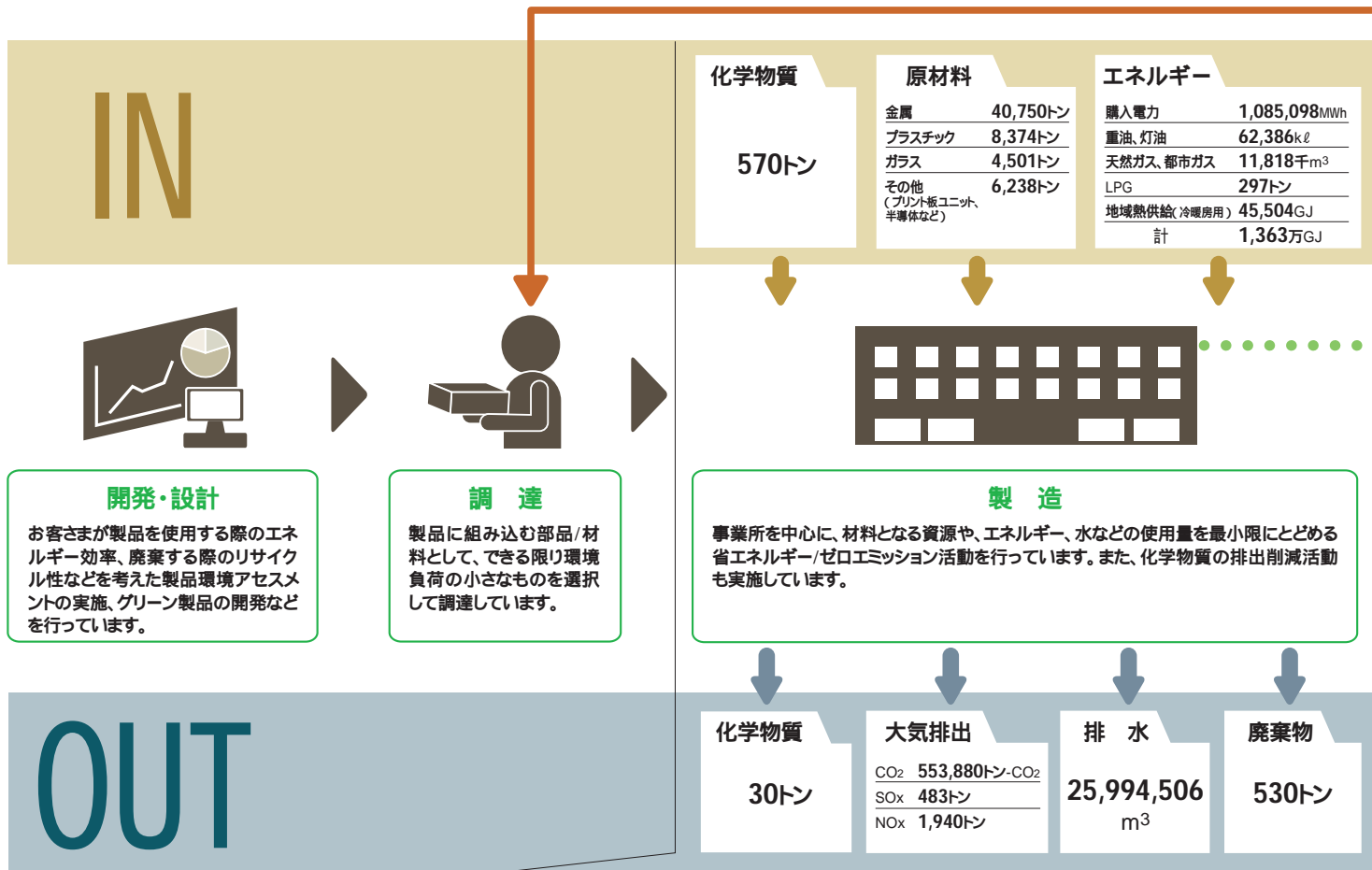
富士通グループは、さまざまな部品や原材料を調達し、水/金属/電力などの資源/エネルギーや化学物質を使用してお客さまに製品を提供しています。こうした活動は、幅広い局面で環境負荷を生みだします。私たちは、これらの負荷量を算出し、低減する努力を続けながら、より付加価値の高い製品やサービスの提供を続けます。

開発・設計、調達から回収のプロセスの中で、環境負荷を低減する多様な活動を行っています。

情報システム、パソコン、携帯電話、半導体など、資源/エネルギーを使用して多様な製品をお客さまに提供する幅広い事業活動を展開しています。これらの活動が環境に与える全体像を把握し、その負荷を可能な限り低減するよう努力しています。

私たちは、あらゆる事業領域において環境に配慮した事業活動を実施し、私たち自身はもとより、お客さまや社会全体の環境負荷低減に努力していきます。

対象地域：日本国内（富士通単独）



開発・設計

お客さまが製品を使用する際のエネルギー効率、廃棄する際のリサイクル性を考えた製品環境アセスメントの実施、グリーン製品の開発などを行っています。

調達

製品に組み込む部品/材料として、できる限り環境負荷の小さなものを選択して調達しています。

製造

事業所を中心に、材料となる資源や、エネルギー、水などの使用量を最小限にとどめる省エネルギー/ゼロエミッション活動を行っています。また、化学物質の排出削減活動も実施しています。

算出方法

製造	
<b>IN</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質 2002年度の工場、事業所におけるPRTR法の対象とされる化学物質の取扱量</li> <li>原材料 2002年度に出荷した主要製品への使用量 (各製品1台あたりの原材料使用量×2002年度出荷台数) 主要製品: パソコン、携帯電話、サーバ、スキャナー、プリンター、光磁気ディスク、小型磁気ディスク、ディスクアレイ、金融端末製品、流通端末製品、IPネットワーク製品、電子デバイス</li> <li>エネルギー 2002年度の工場、事業所における電力、ガス、燃料の消費量</li> </ul>
<b>OUT</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質 2002年度のPRTR法の対象とされる化学物質の工場の排水溝や排気口から排出される濃度を測定し、総排出量(ニッケル化合物、マンガン化合物などの場合)または総排気量(キシレン、トルエンなどの場合)を乗じて算出、あるいは化学物質の収支量(キシレン、トルエンの場合)に基づき算出。</li> <li>大気排出 CO<sub>2</sub>: 2002年度の工場、事業所におけるエネルギー消費に伴うCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー消費量×CO<sub>2</sub>換算係数) NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>: 2002年度の工場、事業所の排気口(ボイラー等)から排出される排ガス中の物質濃度を測定した排出量に基づき算出</li> <li>排水 2002年度に工場、事業所から下水道または河川に排水された量</li> <li>廃棄物 2002年度に工場、事業所において埋立処分、単焼却された量(廃棄物量)</li> </ul>



川崎工場近郊農家の農場

### 社員食堂における 生ごみリサイクルシステム

富士通では社員食堂から出る生ごみを肥料にして農家に提供し、そこで収穫された農作物を食堂に還元しています。現在11事業所でシステムを導入しており、2002年度の全事業所の生ごみ排出量は323tで、そのうちの95%(306t)をこのシステムにより肥料化しています。

#### エネルギー

燃料  
8,125  
kl(軽油)



#### 物流・販売

製品の輸送やお客さまへの納入の際に、消費するエネルギー使用量を抑制し、大気中への排ガス排出量の低減をはかっています。

#### 大気排出

CO<sub>2</sub>  
21,449  
トン-CO<sub>2</sub>

#### 物流・販売

・エネルギー 環境省の環境報告書ガイドラインに示されている、軽油の指標となる2.64(kgCO<sub>2</sub>/ℓ)係数を使用し、2002年度のトラック走行距離あたりのCO<sub>2</sub>排出量より算出しました。データは推計です。

・大気排出 2002年度のトラック走行距離あたりのCO<sub>2</sub>排出量  
(トラック走行距離×荷物重量×0.35kgCO<sub>2</sub>/トン・km)  
貨物輸送機関の二酸化炭素排出原単位:平成13年4月26日開催の環境省中央環境審議会資料より

#### エネルギー

電力  
8,799,038  
MWh  
(8,649万GJ)



#### 使用

製品の省エネルギーをはかっています。また長く製品をご使用いただくため、性能・機能を拡張できる構造とし、保守・修理を行っています。

#### 大気排出

CO<sub>2</sub>  
3,167,654  
トン-CO<sub>2</sub>

#### 使用

・エネルギー 2002年度に出荷した主要製品の消費電力量  
(各製品1台あたりの想定使用時間・年数における消費電力量×2002年度出荷台数)

・大気排出 2002年度に出荷した主要製品から使用時に排出されるCO<sub>2</sub>量  
(各製品1台あたりの想定使用時間・年数におけるCO<sub>2</sub>排出量×2002年度出荷台数)

資源再利用率  
84.1%  
回収量  
12,380 t

回収  
再使用  
再利用

#### 回収・再使用化 / 再利用化

使用済み製品の回収、再使用、再利用をはかるためのエネルギー使用量を抑制しています。なお、廃棄物の処理については、有効利用を進めていますが、一部埋立て処分も行っています。

#### 回収・再使用/再利用

社団法人電子情報技術産業協会によって示された算定方法に基づき、使用済み製品の処理量に対する再生部品・再生資源の重量比率です。ただし、使用済みの電子機器製品以外の回収廃棄物は除きます。